

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

本圏域は銚子市のみで、特定第3種銚子漁港、第2種外川漁港がある。圏域内の漁業協同組合は平成8年に6組合が合併した銚子市漁業協同組合のみである。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

圏域内の属地陸揚量はピーク時の昭和59年の847,040トンから減少を続け、平成30年には252,386トンとなっているが、依然として国内で重要な位置を占めており銚子漁港の陸揚量は11年連続日本一を達成している。(令和3年)

圏域の主要漁業種類は、大型船による大中型まき網漁業(96%)や沖合底びき網漁業、サンマ漁業の他、小型機船底びき網、一本つり、刺網等の小型漁船漁業等多様な漁業が営まれている。また主要魚種は、さば類(46%)、いわし類(43%)、カツオ・マグロ類(5%)である。

資源管理の取り組みとして、大中型まき網漁業などの沖合漁業では、漁獲可能量制度による取組を実践しているほか、沿岸漁業ではつり漁業が定期休漁日の設定、小型機船底びき網漁業が漁具制限などに取り組んでいる。つくり育てる漁業の取組として、マダイ、ヒラメの種苗放流を実施するとともに、新たな漁場整備として外川地区で魚礁の設置を実施中である。

③ 水産物の流通・加工の状況

陸揚量の60%は地元向けで、そのうち90%は加工向けとなっている。銚子漁港は流通拠点漁港としての役割を担っており、銚子市漁業協同組合地方卸売市場の荷さばき施設を高度衛生管理型として整備することで海外ニーズにも対応できるようにする。

④ 養殖業の状況

本圏域では該当なし。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者(組合員等)の状況

組合員数は215人(H30)で平成26年の365人より150人減少している。漁業経営体は199(H30)であり平成26年より44減少している。

⑥ 水産業の発展のための取組

- ・令和6年度の供用開始に向けて、銚子漁港の第三市場を高度衛生管理型として整備している。

- ・(公財) 千葉県水産振興公社、漁業協同組合において、マダイ、ヒラメの種苗放流を行い資源管理に努めている。
- ・立て縄と呼ばれる一本釣り漁法により釣り上げられ銚子・外川漁港に水揚げされるキンメダイは「銚子つきんめ」として千葉ブランド水産物に認定されており、豊洲市場などで高い評価を得ている。
- ・水産加工業は、前浜に揚がる豊富な魚を使い、塩蔵品、塩干品、缶詰等様々な加工品が生産されている。なかでも、サバ、イワシ等の冷凍水産物は、主にタイやベトナム等東南アジア、エジプトやナイジェリア等中東・アフリカに輸出されており、輸出拡大に向けた施設整備が進められている。
- ・平成 27 年度に高度衛生管理型としてオープンした第一市場に水揚されるマグロ類を「銚子生まぐろ」として「銚子水産まつり」や漁業協同組合直営食堂「万祝」にてPRしている。
- ・銚子漁港では外来船の利用割合が高いことから廻船の誘致を積極的に進めている。
- ・市と連携して「銚子水産まつり」を開催しており、地域の発展と水産業の振興に貢献している。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

銚子漁港では、接岸するまき網漁船の大型化が進んでおり、対応する岸壁等の整備が求められている。

また、競争力強化、輸出促進、防災対策、老朽化対策等の多様な整備が求められており、限られた予算の中で早期に効果を発現させるため、優先度を考慮した漁港整備を実施していく必要がある。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

本圏域では特に集約を検討していない。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；全国有数の銚子漁港では外川漁港の水産物も集約し、産地市場で入札を行い、消費地や加工場へ出荷している。
② 圏域範囲	銚子市	設定理由；銚子漁港と、銚子漁港を補完する外川漁港で構成する。
③ 流通拠点漁港	銚子漁港	設定理由；産地市場を有し、属地陸揚量 25 万トン余り、属地陸揚金額 287 億円余りの漁港である。

④ 生産拠点漁港	外川漁港	設定理由；属地陸揚金額約 10 億円の第 2 種漁港である。
⑤ 輸出拠点漁港	銚子漁港	設定理由；銚子漁港は水揚げ量日本一を誇り、背後に冷凍施設や水産加工場も立地している。主な輸出品目は冷凍サバ、イワシである。

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	280,359	圏域の登録漁船隻数(隻)	202
圏域の総漁港数	2	圏域内での輸出取扱量(トン)	65,547
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	-		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(トン)	なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	なし

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

銚子漁港については、平成 29 年に製氷・貯氷施設を整備するとともに、高度衛生管理型とした第一市場（平成 27 年）に続き、第三市場の高度衛生管理型および前面岸壁の耐震強化の整備を一体的に進め、水産物の品質向上や輸出促進に取り組むとともに、漁船の大型化に対応する岸壁等の整備を実施し、生産流通機能の一層の向上を図る。

また、第三市場整備に併せ、タブレットを活用した電子入札の導入を検討している。

恒常的な漂砂の影響を受けている外川漁港については、外郭施設、水域施設等の整備を進め、安定した出漁環境を確保することで、生産流通機能の向上を図る。

② 養殖生産拠点の形成

本圏域については養殖生産拠点を設定していない。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

本圏域における対象魚種のマダイ、ヒラメは、県研究機関による対象生物の移動・分布、食性調査等の実施と併せて種苗生産から中間育成まで管理し放流を行うことにより、近年、安定した生産量となっている。

海域特性に配慮するとともに、漁獲対象魚の効果的な増集を図る魚礁設置による漁場の整備を行い、統一した手法による継続的なモニタリングを実施することにより、持続可能な漁業生産を確保し、安定した漁業経営を図る。

② 災害リスクへの対応力強化

銚子漁港は、防災拠点漁港として緊急物資等の海上輸送拠点とされており、耐震強化岸壁がある黒生地区の岸壁および、防波堤の整備により防災・減災機能の向上を図る。

利根川沿いの導流堤整備を進めることにより、高波や高潮、遡上津波に対する防災・減災機能の向上を図る。

また、銚子、外川の両漁港とも、既存漁港ストックの老朽化が進行していることから、予防保全の考え方にに基づき、緊急性の高い施設の長寿命化対策を優先的に実施し、高波・高潮、津波時の被災リスクの低減、持続可能な漁港インフラの管理を進める。

さらに、本圏域は東日本大震災における津波被害が発生した地域であり、漁港漁村の防災・減災として、外川漁港海岸の津波高潮対策について合意形成を図りながら進めていく。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

- ・ 漁港の活用促進の支援（海業等の振興（銚子市漁業協同組合直営食堂：万祝、水産物直売施設：ウオッセ21等））
- ・ 地域活性化の取組との連携（豊かな自然を生かした交流人口の増加（ジオパーク、イルカウォッチング等）、歴史ある産業（醤油）、遊漁船、プレジャーボート係留施設、風力発電事業等）

漁業協同組合等、地元の意見を聞きながら、漁港施設用地や水域の有効活用について検討し、漁村の活性化に繋げる。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・ 生活環境の改善（地元市による定住促進等との連携）

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
銚子	流通機能強化 輸出促進	水産流通 基盤整備	銚子	特定 第3種	○
外川	流通機能強化	水産生産	外川	第2種	

・銚子漁港の第三市場および前面岸壁を高度衛生管理型へ整備するとともに、岸壁の耐震強化を一体的に行う。

また、まき網船の大型化に対応した岸壁等の整備を行い、水産物の生産流通機能の強化を図る。

・外川漁港の外郭施設、水域施設等の整備を進め、安定した出漁環境を確保することで、生産流通機能の向上を図る。

② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
なし					

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
外房（外川）	資源管理	水産環境整備

・外房地区外川工区において、魚礁による漁場整備を実施する。

・栽培漁業基本計画に基づいて、県・市町村・（公財）千葉県水産振興公社・漁業者が一体となって計画的・効率的な種苗生産・放流を実施する。

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
銚子	安心安全 早期回復 予防保全	水産流通基盤整備	銚子	特定第3種	○
銚子・九 十九里	安心安全 予防保全	水産物供給基盤機能保全	銚子 外川	特定第3種 第2種	○

・銚子漁港黒生地区の耐浪対策として外郭施設の整備を行う。

- ・銚子漁港の第3市場を改良し耐震性を向上させる。併せて電源喪失対策を実施し災害に対する安全性の向上および被災後の流通機能の早期回復を図る。
- ・銚子漁港に隣接する利根川を遡上する高波や津波対策として導流堤の改良を行う。
- ・外川漁港では津波、高波による港口埋塞対策として、浚渫を予防的に行う。
- ・銚子、外川漁港では、予防保全の考え方にに基づき、補修の緊急度や費用の平準化、縮減に留意しつつ、計画的に保全工事および浚渫を実施し、漁港施設の老朽化対策を行う。

(参考)

地区名	主要対策	事業名
外川漁港海岸	安心安全	農山漁村地域整備交付金(海岸)

- ・外川漁港を含む漁村や周辺地域の津波対策として防潮堤の整備を進める。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
なし					

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
なし					

4. 環境への配慮事項

浚渫土砂の処分については本事業における有効活用を図ることにより、排出土量を抑制し環境への負荷を低減する。また、銚子漁港における導流堤の新設については、泊地内の水質保全のために海水交換が可能な構造を検討する。

洋上風力発電の促進区域に指定された銚子市沖(令和2年)では、漁業と調和のとれた発電施設の整備・運用が実現するよう、関係機関等との連携を図る。

また県営漁港内の外灯についてLED化を進める。

5. 水産物流通圏域図

別添